

2013/3/27
第 47 号
(25 年 3 月号)

しののめ



長野県総合教育センター通信

〒 399-0711 長野県塩尻市大字片丘字南唐沢 6342-4
TEL (0263) 53-8802 FAX (0263) 51-1290 E-mail kikaku@edu-ctr.pref.nagano.jp



巻頭言 「この一年」

総合教育センター所長 三村 保

この冬は、職員総出で何度も雪をかき、利用される皆様の駐車場を確保した。度重なる雪で折れた木々の枝を花瓶に挿し、今、膨らんだつぼみや花を楽しんでいる。

さて、「総合教育センターは何をやっている機関かわからない。」との事業仕分けのご指摘もあり、この一年さまざまに試みた。

まず、ここで教員はどのように学んでいるのかを報道や県民の皆様オープンにした。研修講座を計 30 回プレス発表し取り上げてもらった。教員が真剣に学び、学校に戻ってさらに魅力ある授業を生徒に還元していくという普段の様子がテレビや新聞に度々出た。

また、2 月には初めて「センター研究発表会」を開催し、県内外から多数（遠く青森県からも 3 名）ご参加いただいた。研究調査事業を発表したがそれで終わりではない。当日のご意見を踏まえてさらに現場で使えるものに練り上げたい。

さらに、条例を改正し 24 年 4 月から研修室、講堂やテニスコートなどを県民の皆様有料で開放した。夏季には県のクールシェアスポットに登録し、標高 817 メートルのこの施設にお越しいただき、館内や講座の見学をしていただいた。

以上、センターの透明化の第一歩を踏み出した一年であった。

研修講座について触れる。今年は初任者研修の複数年実施の初年度であった。放射線理解、作問研修、キャリア教育等現場の課題に即座に対応するために講座の充実・拡大なども積極的に行った。また研修に参加しやすくするために校内研修支援に専門主事がより多く出かけた。現場にとって必要感のある、参加しやすい研修内容を追及してきた。

教員と教育そのものへの信頼が揺らぎ、教員研修はいかにあるべきか、根本から問い直しを迫られている。今後県教委を中心に「長野県教育の理念と教員のあるべき姿を見すえた新たな研修体系」の構築が始まる。

このセンターは人里から離れ、穏やかに時を刻んでいるように映ろうが、決して内向きではない。常に先を見て、県民の厳しい批判にも、たくさんの期待にも応えられるように一つひとつ成果をあげていく覚悟でいる。ここには生徒はいないが、生徒と同じ目の高さでみることを職員一同片ときも忘れてはいない。そしてそれ以上に、県内教員がはるかに高い次元の感性、専門性、品位を養い、生徒を指導できる判断力、技量、能力を高めることがこのセンターの役割だと肝に銘じている。



「学び続ける教員像」

総合教育センター参事 青木 正幸

昨今、学校教育の内容や方法の改善を図るためのキーコンセプトとして、あらためて「自己教育力」の育成がクローズアップされているのではないかと感じます。もともと自己教育力というのは、昭和58年に中教審の教育内容等小委員会の審議経過報告の中で示された概念で、「主体的に学ぶ意志、態度、能力などをいい、それはまずもって学習意欲であり、学習の仕方の習得であり、今後の変化の激しい社会における生き方の問題にかかわるものである」と定義されています。

本県教育委員会では、教育課程・学習指導改善に向けた基本的な目標に「豊かな人間性・自ら学び自ら考える力など“生きる力”をはぐくむ教育の推進」を掲げて、“生きる力”の知的側面としての“確かな学力”の育成を一つの柱に据えています。この“確かな学力”は、言い換えれば「自己学習力＝自ら学びを開き、自ら学ぶ力」であり、自己教育力を子どもたち側から捉えた概念であると言えます。「まなぶ」という言葉は、語源的には「まねぶ」という言葉と同義語であり、辞書によっては、「まなぶ」は「まねぶ」の変化したものであると説明されています。「まねぶ」は、源氏物語や枕草子などの古典で使われており、本来の意味は「まねをする」「まねる」ということです。突き詰めれば、学ぶとは、まねることから創り出すこと、さらには、人間として求め続けるものをまねて、そのまねることを通して生きる価値を創り出す努力を積み重ねることと捉え直すことができるのではないかと思います。人間が生きているということは、主体的に学びつつ、学びの仕方すなわち生き方を身につけることであり、必然的に自己教育力が伴わなければなりません。

昨年8月の中教審答申「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」の中では、社会の急速な進展の中で陳腐化しないよう絶えず知識や技能を磨き、子どもたちの模範となるような“学び続ける教員像”の確立が求められています。また、学校は単に知識や技能を身につけるところではなく、その機能は子どもたちに学ぶ意欲を持たせ、学び方を身につけさせるところにあると言われています。子どもたちの自己教育力は、例えば国語や数学などの教科を徹底して学ぶことによって育まなければならないし、そのためには、同時に教員自身において、教員としての自己教育力が培われていなければならないはずです。つまり、教えることを通して、自問、自戒、自省し続け、自己変革し続けることは、教員の天命とも言うべきものであり、教員が学び続けるとは、教員になり続けることであり、“学び続ける教員像”は、自己教育力を礎として確立されていくものであると言えるのではないのでしょうか。

お知らせ

平成24年度に採用された初任者研修対象者の2年次研修が始まります。

◇義務初任者研修「2年次研修」 校外研修4日の内、総合教育センターでの研修は次のとおりです。

- 「2年次全体研修」[5月21日(火)]
実施案内(分散会ワークショップ等)を4月に学校へ発送します。申込みは不要です。
- 「総合教育センター・体育センター選択研修」 1日
2年次は、総合教育センター又は体育センターから1日を選択して研修します。
詳細については、平成25年度研修講座案内でお知らせします。ご確認の上、お申込み下さい。

◇高校初任者研修「2年次研修」 総合教育センターにおいて1日の研修講座を受講します。

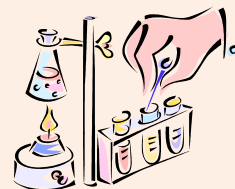
- 「課題研究研修A」[7月30日(火)]、「課題研究研修B」[8月1日(木)]のどちらか1日を指定します。申込みは不要です。

平成 24 年度 実践研究 報告

今年度の実践研究は、7分野で開講、10名が受講しました。

専門主事の助言と指導のもと、能動的で実践的な研究を行い、教員各自の専門性や先見性を高め、実践的指導力をパワーアップすることをめざして取り組んできました。

以下に今年度各分野受講者の研究テーマを紹介します。



平成 24 年度実践研究テーマ一覧

分野	研究テーマ	学校氏名
国語	「書くこと」領域における学習活動の工夫 ～表現のしかたを工夫して書こう(中2)～	八坂中学校 西川 美幸
社会	事実認識をより確実にして、社会的事象の持つ意味や背景を追究する社会科学習 はどうあったらよいか ～「資料を読み取り、説明する力」の育成に焦点をあてて～	鼎中学校 中島 博文
社会	社会的事象の持つ意味を追究する社会科学習はどうあったらよいか ～資料をもとに考察し、表現する力の育成に焦点をあてて～	丸ノ内中学校 有賀 武
理科-化学	生徒の興味を引き出す新しい実験教材の開発と 実験 の評価のあり方 —観点別評価につなげるための実験書の作成と実験指導方法の工夫も含めて—	諏訪実業高等学校 小宮山 百合子
理科-生物	子どもたちが生き物に興味をもつことのできる教材提示のあり方	古牧小学校 中沢 英明
小中英語	小学校の外国語活動と中学校の英語の連携のあり方 ～初期の文字指導から自分らしい英文を書く指導ステップ～	菅平中学校 清水 陽月
音楽	生き生きと音楽に関わる子どもを育てるための教師の支援のあり方 ～地域素材を生かした創作オペレッタ『金鶏金山物語』を通して～	金沢小学校 平澤 洋子
音楽	子どもたち同士がかかわり合い、音楽の要素の動きが生み出すよさや面白さを感じ 取りながら学べる音楽づくりのあり方	高森北小学校 西脇 いずみ
カリキュラム・ マネジメント	小規模校における学力向上につながる授業改善のあり方はどうあったらよいか ～校内のPDCAサイクルづくりと職員相互の授業改善に向けての協働を中心に～	木祖中学校 近藤 伸一
カリキュラム・ マネジメント	授業に携わる教職員ひとりひとりが、「わかる」「できる」授業を追究していこうとする 職員集団を築くためのマネジメントのあり方 ～学力向上を軸にした研究のあり方～	梓川中学校 吉沢 真理



今年度の「研究成果の概要」は4月よりPDFファイルでご覧になれます。総合教育センターホームページのトップページ [研究調査事業](#) から [実践研究](#) へお進みください。

【お知らせ】 来年度事業の重点

平成 25 年度 “センター事業の重点” をご紹介します。

研修事業



◇ **拡** マネジメントに関する研修

これまでは、ミドルリーダーの育成に向け、組織として学校の課題解決に取り組むための研修を「教務主任」を対象に行ってきました。来年度はこれに加え、「学年主任」を対象とした学校組織マネジメント研修や「研究主任」を対象としたカリキュラム・マネジメント研修を実施します。

◇ **拡** ICT活用に関する研修

これまでは、ICT機器の「操作」を中心に研修を行ってきました。来年度はさらに、児童・生徒の学力向上に向けた、「わかりやすい授業にするためにICTをどのように用いるべきか」について研修します。

◇ **拡** いじめ・不登校に関する研修

これまでは、発生した事案の分析、対処の方法についての研修を行ってきました。来年度はこれに併せて、「未然防止のための人間関係づくり」についても研修します。

☆ **新** 夏休み中の土曜日に研修講座を開設

- 7/27(土) 『授業で使おう、学校図書館』『放射線教育にどう取り組むか』
『染色で広がるものづくり』
- 8/3(土) 『思考力・判断力・表現力を育む社会』『知っておきたい教育現場の著作権』
『授業のユニバーサルデザイン化』

☆ 学校運営や教育課題解決に生かす研修講座

- ・当センターでは、「受講目的の明確化」と「復命の徹底」を図ります。
- ・各学校では、管理職や同僚から受講の勧奨を行い、学校運営の向上を目指します。



研究調査事業

◇ 第2回センター研究発表会 平成 26 年 2 月 21 日(金)

第2回目となる来年度は、授業力向上・生徒指導力向上に向けたICT活用等をテーマに開催します。詳細については随時当センターホームページ等でお知らせいたします。